



# ハイライト よねやま

Vol.259

2021年10月13日  
発行

## 1. 米山月間の由来

国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間に加え、日本独自の月間テーマとして、10月は米山月間となっています。なぜ、10月なのでしょう？

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日～7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月で

は各クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多い、など現実的な支障があったためです。そして何よりも、東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。

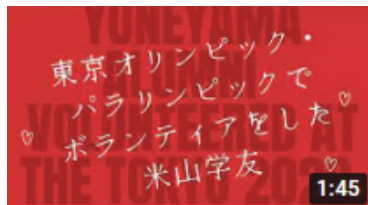


1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。

## 2. 動画で理解促進を — YouTube ページのご案内 —



クラブ国際奉仕プロジェクトの懸け橋となる米山学友



TOKYO2020でボランティアをした米山学友

米山奨学会の  
公式 YouTube チャンネル→



米山記念奨学会では動画で直感的に当事業を理解していただけるよう、公式 YouTube チャンネルを開設し、順次新しい動画をアップロードしています。今年度は、「クラブの国際奉仕と米山学友」(11分)、「TOKYO2020 でボランティアをした米山学友」(2分)の2本を新たに追加。今後も、水野 功副理事長が語る米山記念奨学事業の解説動画など、順次公開予定です。ぜひチャンネル登録をお願いします

## 3. 寄付金速報 — 米山月間へご協力ください —

9月までの寄付金は前年同期と比べて7.5%減(普通寄付金:0.3%減、特別寄付金:16.6%減)、約2,800万円の減少となりました。

新型コロナウイルスの感染者数は8月に過去最大のピークを迎えました。各地で出された緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を受け、例会が長期休会となっていたクラブも多くあります。この影響により、7～9月の累計額は2012

年度以降で最も低い金額となりました。

10月は米山月間です。徐々にコロナに対する警戒レベルも引き下げられ、行動制限も緩和されてまいりました。ロータリー活動も再開されつつありますので、できる限り奨学生との交流を増やしていただき、会員の皆さまにおかれましては引き続き米山記念奨学事業へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## 4. 道路のゴミ拾いで再始動 — 第2770地区学友会 —

緊急事態宣言が解除されて2回目の週末となる10月10日、第2770地区（埼玉県南東）米山学友会が主催する「クリーンアップウォーキング」が行われ、学友と奨学生、ロータリアンら総勢26人が参加しました。

このイベントは、コロナ禍でほとんど休眠状態となっていた同学友会が、地域への貢献とともに、奨学生や若い学友たちにもっとロータリーファミリーとしての体験をしてもら



写真提供: Jeon Min さん

いたいと考えた企画です。

10日はその第一弾として、同地区第1グ



写真提供: Jeon Min さん

ループの区域にあるJR浦和駅から別所沼公園までおよそ2kmの道中を、三人一組でゴミを拾いながら進みました。今後も地区内第2～12グループで同様の活動を実施できるよう、日程を調整中ということです。

同学友会会長の金正録さん（2011-13/大宮西RC）は、「ようやく現役奨学生との交流を深めることができた。ゴミ拾いをした人はポイ捨てをしなくなるし、綺麗になった道を戻りながら皆充実感でいっぱいになった。自分の子どもと一緒に参加したが、良い体験をさせることができた」と、語ってくださいました。

## 5. 大学学長に就任した米山学友

現在、京都精華大学の学長を務める米山学友のウスビ・サコさん（マリ/1992-94/京都北RC、現在同クラブ会員）。高校卒業後、中国の北京語言大学、南京東南大学を経て来日した経歴の持ち主で、専門は空間人類学。2001年に同大教員として着任し、2018年4月より学長に就任しました。最近、著書や新聞寄稿、ニュース番組のコメンテーターとして、日本社会や若者へ多様性や共生の在り方を問うメッセージを発信しています。

今年6月24日の日経新聞「交遊抄」で、ウスビ・サコさんの寄稿が掲載されました。タイトルは「低姿勢な父」。父とは、ウスビ・サコさんの奨学生時代のカウンセラー、小野内会員のことです。

「お金をもらいにクラブに行くと“世話人”なる男性が現れた。家まで送ると言い、車の後部座席のドアを開けてくれる。この奨学金は運転手までつくのかと感心した」。後に日本人女

性と結婚する際も、小野内会員が実父かのように口添えしてくれたエピソードを経て、「マリでは企業の重役は車の後部座席のドアを開けたりはしない。でも、地元の名士である小野内さんは院生の私にそうしてくれた」「私も今は学長という職



にあるが、誰に対しても低姿勢でフラットに接したい」という文で結ばれています。

サコさんのように、多くの米山奨学生はカウンセラーやロータリアンの振る舞いから学びます。コロナ禍が落ち着き、この事業の真髓である交流が各地で再開されることを願わずにはられません。